

連盟

「一斉授業」はコメニウスに始まる

副会長 上智大学教授 加藤幸次

かねてから、私たちが問題にしている学年制による学級集団の「一斉指導」というあり方は、いつ、どのようにして、だれが始めたのであろうか、と疑問に思ってきている。「学年制」という歴年令による学級集団の構成は、多分、1870年代に始まる公教育制度の中で整備されていったと思われる。しかも、^注学級集団が50名前後の子どもたちで構成されるようになっていったことは、当時一般的になる「教室」の大きさがら見ても、想像されるところである。

一般的には、さらにさかのぼって、イギリスで第一次産業革命期（1780年ごろから1830年ごろ）に、「一斉指導」という指導形態が出現してきたと考えられている。例のベル・ランカスター方式によって、一堂に数百名の子どもたちを集め指導するという方式である。子どもたちはいくつかのグループに分かれ、グループごとに助教師（と言つてもすでに学習経験のある年長の子ども）がつく。教師は、まずこの助教師たちを指導し、助教師たちがグループごとに子どもたちの指導にあたる、という方式である。

こうした一挙に数百名の子どもたちを「一斉指導」するというあり方が、やがて1870年ごろまでに、50名前後の子どもたちを「教室」という学習空間に収容して、そこで一斉指導を行うという現在の姿に変わっていった。そこに、今日の公教育制度の出発点があった。

改めて驚いているのであるが、実は、J.A.コメニウス（1592～1670）幼少すでに17世紀に『大教授学』で「一斉指導」を主張しているのである。いや、むしろ、彼は教育を出来る限り多くの子どもに施すために積極的に、一斉指導を推奨しているのである。（本年、大学で教育方法学を担当せねばならず、稻富栄次郎訳『大教授学』、玉川大学出版を読んでいる。）

コメニウスは学校を“共同”的な教育を施す場所ととらえ、「たとえ、子供等を教育するための時

間的余裕を持った両親があったにしても、青年はこれを一つの大きな教室に集めて、多数一緒に教育する方が望ましい。なぜなら、一人の生徒が他の生徒の模範となり、刺激になるということになれば、よりよい結果と、より多くの楽しみが得られるからである。」（P.86）

興味あることに、コメニウス自身「今まで学級の全生徒に対して、同時に教授する方法が全く知られなかつたということである。」と述べている。したがって、コメニウスこそ「一斉指導の父」といふことになる。また、「私は一人の教師が同時に数百名の子供を教えることは、ただ単に可能であるのみならず、是非そうなるべきものだと主張する。」とも言う。（P.220）

それを可能にするために、コメニウスは「不必要的事柄、親しみのない事柄、余りに特殊な事柄」を取り除いた教科書（コメニウスが作った『世界図鑑』は世界で初の教科書）と「一石二鳥」的な効果的な指導法が必要である、と言う。効果的な指導法について、八つの原則を詳しく述べている。（P.222～224）注目すべきことは子どもたちに対して“厳しい”態度でのぞんでいる点である。「若しも或生徒が不注意であることが分かれば、彼は即座に叱責し若しくは処罰されなければならない。」と言う。当時ごく一般的であったムチ打ちの音が聞こえてくる。そこには、原罪を引きづった子どもの姿がある。

いずれにしろ、コメニウスは「教授学の父」と言われるが、実は、「一斉指導の父」でもあることがはっきりした。やがて、ロックやベスタロッチやルソーによって、学習する子どもの立場に注意がはらわれていくことになるのだが、公教育制度の確立にともなって、コメニウスの考え方方が広く採用されたと言ってよい。ますます、ヘルバートの位置が微妙なものになってきており、と言つてよい。

新理事決まる

平成3年度からの理事を、下記の方々にお引き受けいただきました。よろしくお願ひいたします。

- 会長 染田屋謙相（東京・前板橋区教育長）
- 副会長 伊藤一郎（東京・目黒区教育長）
- 〃 加藤幸次（東京・上智大学教授）
- 理事 岩崎誠一（教育環境計画研究所長）
- 〃 太井秀夫（北海道・明和小学校長）
- 〃 工藤鉄雄（北海道・月寒東小学校長）
- 〃 佐藤有（北海道教育大学文部教官）
- 〃 重本勘治（北海道・大谷地東小学校長）
- 〃 坪谷京子（北海道教育大学講師）
- 〃 我孫子正紀（山形・寒河江小学校長）
- 〃 細谷克夫（山形・戸沢小学校長）
- 〃 五十嵐庸（福島・三春町教育委嘱主）
- 〃 斎藤健一（福島・川俣小学校長）
- 〃 武藤義男（福島・前三春町教育長）
- 〃 野村裕子（福島・高瀬小学校長）
- 〃 佐藤益雄（群馬・前橋教育研究所）
- 〃 ○江連富男（埼玉・本庄市教育委嘱主）
- 〃 ○坂地澄夫（千葉県総合教育センター）
- 〃 ○石坂和夫（国立教育研究所室長）
- 〃 ○上山英昭（東京・志村第二小学校長）
- 〃 ○木戸芳清（日本視聴覚教材センター）
- 〃 ○行徳高徳（東京・前中目黒小学校長）
- 〃 ○楠元尾（東京・浅草小学校長）
- 〃 ○久保田滋（東京・目黒区教育研究所）
- 〃 ○清水正三郎（東京・大東文化大学教授）
- 〃 ○志茂暁子（東京・音羽小学校教頭）
- 〃 ○高浦勝義（国立教育研究所室長）
- 〃 ○筒井安雄（東京・宮前小学校長）
- 〃 ○永井タケ子（東京・大蔵小学校長）
- 〃 ○永地正直（東京・西日本新聞社）
- 〃 ○平野朝久（東京学芸大学助教授）
- 〃 ○松野康子（東京・上野小学校長）
- 〃 ○矢沢公雄（東京・東山小学校長）
- 〃 ○岡本昭男（神奈川・大磯小学校長）
- 〃 ○閔芳雄（神奈川・上作延小学校長）
- 〃 ○高橋稔（神奈川・下曾我小学校長）
- 〃 神代醇一（静岡県教育委嘱主）
- 〃 齐木昭平（新潟・黒崎市教育委員会）
- 〃 上原毅（富山・入善小学校長）
- 〃 上島賛一（富山・野中小学校長）
- 〃 ○浅沼茂（愛知・名古屋大学助教授）
- 〃 糸柳弘（愛知・二川南小学校長）

理事 松下晴彦（愛知県山女学院大助教授）

- 〃 鈴木正幸（神戸大学教授）
- 〃 長田勝男（沖縄・前大連小学校長）
- 〃 渡久地政吉（沖縄・那覇市教育研究所長）

---東海個性化教育研究会(H.2.3現在)---

- 理事 高木省三（会長 東浦町教育長）
- 〃 ○高橋一（副会長 島田市教育長）
- 〃 ○安田重信（〃 池田小学校長）
- 〃 ○板恒雄（愛知・緒川小学校長）
- 〃 竹内順夫（愛知・旭南中学校長）
- 〃 田口博（岐阜・前東白川村教育長）
- 〃 中山健彦（岐阜・東白川小学校長）
- 〃 岩間隆義（岐阜・大垣北中学校長）
- 〃 村松務（静岡・六合中学校長）
- 〃 山田一男（静岡・初倉小学校長）
- 〃 横田川稔（静岡・島田第二中学校長）
- 〃 原田一男（愛知・稻武町教育長）
- 〃 新美一成（愛知・片倉小学校長）
- 〃 柳原秀道（愛知・前卯ノ里小学校長）
- 〃 服部昭一（愛知・石浜西小学校長）
- 〃 安藤慈（愛知・卯ノ里小学校長）
- 〃 成田幸夫（愛知・上野中学校）
- 〃 魚住忠久（愛知教育大学教授）
- 〃 竹内通夫（金城学院大学教授）
- 〃 野村鉢吉（前常磐東小学校長）

---九州個性化教育研究会(H.2.4現在)---

- 理事 三原英雄（顧問 春日市教育長）
- 〃 ○前崎敏雄（会長 県教育センター副理事）
- 〃 ○宮里朝景（副会長 沖縄・兼原小学校長）
- 〃 ○荒木隆（〃 北九州教育事務所）
- 〃 ○松尾法夫（福岡・東郷小学校長）
- 〃 横大路達也（福岡・須恵第一小学校長）
- 〃 田中晋（福岡・教育事務所指導主事）
- 〃 中原春樹（福岡・福岡市教育センター）
- 〃 八谷俊郎（佐賀・山内小学校長）
- 〃 大塚廣道（長崎・猪崎小学校長）
- 〃 内田末春（熊本・山北小学校長）
- 〃 佐藤実（大分・川原小学校長）
- 〃 中島増夫（鹿児島・前加世田小学校長）
- 〃 安田政登（沖縄・前具志川市教育長）
- 〃 横田裕之（沖縄・中原小学校長）
- 〃 古謝哲雄（沖縄・高江州小学校長）
- 〃 小谷良治（沖縄・具志川市教育委嘱主）

（印は常任理事）

※理事の方々の記載事項に誤りがありましたら、
事務局までお知らせくださいますよう、お願い
いたします。

平成3年度の主な活動計画

会員名簿の発行

昨年度、念願の会員名簿ができあがり、会員の皆様にお届けしましたが、初版ということで、訂正すべき箇所が、かなりあるようです。

そこで、本年度も続けて1991年度版の会員名簿を作成することになりました。1990年度版の名簿で訂正すべき箇所がありましたら、至急お知らせください。名簿は、9月ごろに、できあがる予定です。

なお、連絡先は原則として、自宅住所とさせていただきます。学校住所の場合、転任されますと連絡がつきかねる場合がありますので、ご了承ください。

会誌「個性を育てる」第5号の発行

本会の会誌「個性を育てる」は、現在第5号の発行に向けて、準備を進めているところです。今回もたくさんの先生方に原稿を書いていただき、ありがとうございました。

第5号は、コンピュータ教育についての特集です。コンピュータ教育についての考え方やコンピュータを活用した授業づくりの紹介など、これからのお教育を考えていくうえで、大いに参考になると思います。

——バックナンバーをお分けします——

会誌の1・2・3・4号が少しだけ残っています。個別化・個性化教育についての理論や授業づくりの特集で、たくさんの先生方に書いていただいている。ご希望があれば、1冊500円でお分けします。

〈会誌の注文・投稿に関する問い合わせ先〉

〒278 千葉県野田市堤台438-96

編集部長 松田早苗

☎ 0471-25-2649

本の収集・発行

以前からお知らせしていました、「個性化教育実践ハンドブック」と「個性化教育実践校ガイドブック」の出版に向けて、動き出しています。どちらの本も、本年度中には、なんとか出せそうです。

第7回夏季研修会の開催

昨年度の九州に統一して、本年度は東京で行います。現在、全国個性化教育研究連盟事務局を中心に、準備を進めています。

今回は、「新指導要領と個性化教育のあり方——個性を生かす学習環境——」をテーマに、加藤幸次先生、高浦勝義先生ほか、多彩な講師の先生方をお迎えして、会員の皆様といっしょに考えていくたいと思っています。また、都内のインテリジェントスクールやオープンスクールの見学も計画しています。ぜひ、ご参加ください。

・期日 7月25日(木)～7月27日(土)

・会場 上智大学 (JR・地下鉄四ツ谷駅下車
徒歩3分)

このほか、秋ごろに東京地区で、生活科の研究会などを予定しています。くわしいことが、決まりしだい、ご案内します。

個性化教育の新しい研究会が、生まれましたので、紹介させていただきます。

◇◇具志川市(沖縄)個性化教育研究会発足◇◇

平成3年2月28日、具志川市立田場小学校において、具志川市個性化教育研究会が開かれ、異なる学校に勤めている先生方が、個性化教育を推進していく立場で一同に会した。

具志川市個性化教育研究会を結成し活動していくために開かれたこの日の研修会は、6年算数の提案授業から始まり、3名の先生方による研究報告の後、この日の研修会までの経過や個性化教育研究会の会則・入会方法などの説明が行われた。

◇◇◇韓国オープン教育研究会の発足◇◇◇

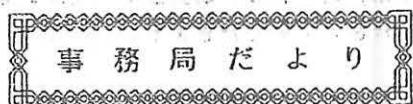
私たちの会の国際会員の一人、朴性芳さん（ソウル市の泳蓮小学校長）を中心に「韓国オープン教育研究会」が本年4月に発足した。去る5月6日、約300人近い参加者を得て、同校において第一回の研究会が開かれ、オープン・スペースをもった同校の授業公開のあと、韓国教育開発院の李容淑さんの「オープン・スクールと伝統校における学習活動の分析」というテーマでの講演があった。

午後は本会の副会長加藤幸次氏が「日本のオープン教育」について講演した。今後、国際的な協力も考えて行くべき時に来ているのではないか。



会長 殷容基（徳成女子高等学校長）

副会長 朴性芳校長、李容淑研究員および
金恩山教授（ホンイ大学、韓国におけるA.S.ニイルのサマー・ヒル学校の紹介者）



平成3年度に入り、事務局の組織が一部かわりました。事務局を中心に会員の皆様の力で、個性化教育をさらに推進していきたいと思います。

本会に関する問い合わせは、下記までお願ひいたします。

（事務局への問い合わせ・連絡先）

〒114 東京都北区赤羽南1-16-2-504

☎ 03-3903-4780 庶務部長 佐久間茂和

（事務局新組織）

事務局長	庶務部	○佐久間茂和（東京） 山田富久（東京） 加藤幸次（東京） (東海・九州個教研連絡担当) 成田幸夫（愛知） (東海個教研) 池田信一（福岡） (九州個教研)
	広報部	○望月桂二（東京） 五十子晴美（東京） 館岡茂樹（神奈川）
	会計部	○中沢米子（東京） 橋本享子（東京）
	研究部	○浅沼茂（愛知） 加藤勇（埼玉） 結城恵（埼玉） 加藤浩子（東京）
	研修部	○河合剛英（神奈川） 等々力美津子（東京） 並木康成（神奈川） 池田伊三郎（神奈川） 久保寺克明（神奈川）
編集部	○松田早苗（千葉） 川島良代（東京） 小久保晶良（埼玉） 荻久保公秋（埼玉）	
	(○印は各部の部長)	

全国個性化教育研究連盟会報 第18号

平成3年5月20日発行

編集責任者 事務局長 高浦勝義

編集 広報部長 望月桂二